

## 3度目のラオス訪問：「ラオスに学校を建てよう」活動報告

大野正夫



ラオスは、地図に示すように、ベトナム、カンボジア、タイ、ミャンマー、中国と国境を接する内陸国である。1957年にフランスから独立したが、内戦が続き、ベトナム戦争では大量の爆弾が投下されたという。1975年までは西側諸国側の政権であったが、1975年にラオス人民共和国となり、社会主义国家となった。

そのために西側諸国からの支援が少ない低貧国とされてきた。東南アジアが急速に発展しつつあるがラオスは豊かさへの速度が遅い。

2024年8月1日より10日まで、3度目のラオス訪問をした。高知市立高知商高校の生徒達、生徒会OB、先生方、高知ラオス会のメンバーの20名が参加した。今回は、この活動の30周年記念式典とイベントがあり、私はこの活動の発起人の一人で、今回は高知ラオス会・会長として、最後の役目と思い、参加した。

今から31年前、1994年に高知県国際交流協会が発足した記念事業として、高知県内の民間国際交流団体への海外研修が企画された。航空券助成で、30名ほどが、タイとラオスへ帰国留学生との交流やJICAの国際協力の実情視察であった。

当時、帰国したJICA専門家は、県内の国際交流活動やJICA海外青年協力隊員募集の支援活動をするJICA高知県帰国専門家連絡会を組織し活動をしていた。



ビエンチャン・凱旋門前にて

この海外研修会に参加した和紙製法の専門家である浜田康氏の高校同級生の和田雅夫氏が、ラオス大使として、ラオスに赴任していた。



凱旋門から見た市街地

JICA 帰国専門家 6 名は、バンコクから別行動をしてラオスへ 2 泊の日程で首都ビエンチャンに飛んだ。

和田大使は JICA の無償援助で建設されたダムを日帰りで案内して下さった。このダムによってラオスの電力は余り、タイに輸入をしており、重要な外貨輸入になっていると言われた。

市内観光も行い、ビエンチャンのシンボルである凱旋門に登った。この凱旋門は、第二次世界大戦後、独立国になった時に、フランス・パ

リの凱旋門に似せて作った。建設途中で共産系と米国系の勢力の内戦になり、二か所の階段の一つは完成しているが、もう一か所は未完成であった。凱旋門は米国支援で建てられたが、内戦となり建設が中断したままになっていた。最上段から眺める光景は。手前が政府機関の建物であり、周囲は街路樹が豊かな商店街と住宅街であった。

ダム視察後、市内の JICA 援助事業を視察した。無償事業でメコン川に橋が架かり、大橋は「日本橋」と呼ばれていた。当時空港も JICA 事業で建設中であった。夜はビエンチャン在住の JICA 専門家との交流会があったが、和田大使から「日本の明治維新の成功は寺子屋が充実していたからである。ラオス発展のため小学校の校舎を建てる事業を行っている」と言われた。ラオスの田舎では小学校の校舎がなく、青空教室が多いと言われて驚いた。一校舎あたりの 12 万円の資材費をユネスコが提供し、村民が建てていると言われた。

帰国後、高知ラオス会を立ちあげて、「ラオスに小学校校舎を建てよう」と高知県内で、新聞やラジオで呼びかけると、高知商業高校の生徒会が文化祭で、基金活動として「チャリティー・コンサート」を行い、この活動に加わった。高知県内の人々の賛同者が多く、飲み屋の女将からも寄付があった。高知商業高校の活動が核となり多くの基金が集まり、翌年 1995 年に、ビエンチャン県のボンゴン村に、立派なコンクリート作りの小学校校舎を建てた。その時に生徒達らが歌った「渡たれメコン川を」(岡崎伸二：作詞・作曲) は、メコン川の光景と交流の夢が良く表現されており、30 年間歌い継がれている。

それから 22 年間、高知商業高校は独特な基金集めをし、さらに県内の有志からの資金援助も加わり、2018 年は 8 校目の建物として、最初の小学校校舎と校庭を挟んで幼稚園を建てた。その引き渡し式が行われた。私は、前年に高知ラオス会の会長となり、式典に参加のために参加した。

高知ラオス会の事務局であった JICA 帰国専門家連絡会が、個人情報の法律が成立した年に名簿が公開できなくなり、JJICA 本部からの運営費もなくなり解

散した。その後、高知ラオス会は、会長・浜田氏と数名で運営していたが、浜田氏が高齢になり 2017 年に、私が会長職を引き受けて、高知商業高校で得た基金の金庫番役となつた。ライオンズクラブや商店団体からの寄付はあったが、ほとんどの基金集めは、高知商業高校の生徒会が行つてきた。

### 生徒が主役の活動

生徒会は学校を建てる基金つくりに、ラオスの特産品を購入し販売することを考え出し、商業高校らしい学内株式会社を作り、全生徒に株を買ってもらい基金にしている。最近では、ラオスの地域興しのアドバイス活動も始めた。これらの活動は、生徒会顧問の先生方のアドバイスもあるが、生徒会長を中心として、サークル活動として 1 年間を通して活動している。生徒が考案した小型「バームクーヘン」は、高知県で最高級ホテル「城西館」と提携販売し、全国展開している。毎回 1 回、高知市の中心街のアーケードを高知ラオスの日として、ラオス製品の販売とその日の各店の売り上げからの収益の 1 部を基金収入として得ている。商業高校の活動は、全国の高校生の間にも知られるようになった。持参冊子「ラオス研修」をみると、準備に費やしたエネルギーが感じられる詳細な資料や研修への注意事項が挿入されており、日誌帳にもなっていた。ラオス支援の生徒らの行動は、はつらつとしており、多くの賞を受賞している。

### ビエンチャンに到着

ラオスは日本の本州とほぼ同じ面積であるが、人口は 650 万人ほどである。大阪府の人口より少ない。東南アジア諸国は、2000 年代から急速な近代化が進んだが、ラオスは、主産業は農業と水産業で緩やかな発展を遂げて、アジアらしい風景が残っていた。20 年を経て 2018 年に訪問した時は、それほど大きなビルはなく、高層ビルは全くなかった。広い道はオートバイと自動車が以前より多く走っていたが、ラッシュとまではゆかなかった。整備された木立は住宅街と調和していた。30 分も車で走ると昔ながらの田園風景になっていた。しかし、6 年間、コロナ禍で視察訪問がなかった間、外国企業、特に日本企業の活動が活発でない間、中国資本の投資が著しく、今回の訪問で、市内に中国系の工場が多く建設され、中国語の看板が目立ち、高層ビルのホテルが 2 棟も建っていた。高速自動車道もこの期間に中国の借款で出来た。皮肉な見方をすれば、中国内で強固なコロナ対策をしていると見せかけて、海外でこの機会を狙って経済的に大躍進をしていたと言える。

### 日本大使館訪問

日本大使館では、一等書記官から、ラオスの現状について説明を受けた。人口、歴史から最新の経済、国際関係、教育まで写真、図表によって 30 分あまり講義をされた。

コロナ禍で日本企業の活動が鈍った数年の間に、中国からの投資が多く、日

本政府も危機感を感じていると言われた。しかも日本政府は基本的に無償援助をしてきたが、中国は有償支援、借款支援であるので、長期にわたってラオス政府は借金を返金せねばならず、中国政府・会社の意のままになる国となってしまうと嘆いていた。

### ビエンチャン州庁訪問・式典

県庁の立派な会議室に通されて、副知事と我々との会談がもたれた。ビエンチャン県は首都特区と隣接した県で、州庁舎は、ビエンチャン中心から3時間あまりのところにある。大きな人工湖（ダム湖）ができて、観光にも力を入れている州である。副知事は、州の経済状態や生活状況を話された。経済は緩やかに上昇しており、県民の生活状況も良くなり、教育関係も改善されている。しかし地域差があり、多くの村では、初等教育も充分ではないと話された。私達は8つの小学校を訪問したが、小学校によって、かなりの格差がある。

その原因は村民が学校運営費をかなり負担しているためである。教育に熱心な村の小学校は、教室、トイレ、教育偉材も充実していた。このような学校は校長先生以下、先生達も活力があった。校長のリーダーシップ力が学校格差を生んでいた。

8小学校のなかで、女性校長の学校が、最も教室はきれいに清掃されており、トイレもきれいであった。私達との懇談では、一人の先生がパソコンを持参して問題点や議論の結果を入力していた。

### 村民、生徒、先生方との交流

各小学校で、村のしきたりに従って、日本の神事のように高く積まれ式台の上から、白い糸が垂れており、村民の生徒もその紐を手にとる。式典の後、幼児には乗り物、子供達にはボールやノートが生徒達から渡されて、交流会となつた。子供達と生徒達が楽しそうにボール遊びや輪を作つて遊ぶ姿は、皆、笑顔で、大人たちにはできない交流である。下記に写真で示す。







小学校の教室では、折り紙をしていた。2名づつ生徒が別れて指導していたが、簡単なラオス語で説明して、上手に鶴や亀を折っていた。生徒達は立派な教師の姿であった。この校舎の中央の壁に、「1995年建設・友好の小学校」とプレートが貼られており、岡崎校長先生は感慨深げに見つめていたのが印象的であった。校長先生から「小学校には二つの村から子供達が来るが、教材や文房具が充分でない」と言われた。小学校のどの部屋も多くの絵と、「手を洗いましょう」などのポスターが張られており、村の小学校らしい。教壇にはクロースがかけられて花が飾られており、先生への尊敬の念が感じられた。イベントとして8つ小学校の生徒が集まり、楽器を奏でて歌い踊った。高知商業高校の生徒は、高知の鳴子踊りに使った衣装で、元気に歌に合わせて舞った。

## ビエンチャンの市街地

ビエンチャン市は特別区で、寺院や公園がいくつもあるが、シンボルの公園は、凱旋門公園である。30年前には、広い砂地広場の中に凱旋門がぽつんと立っており、公園建設半ばであった。今回訪れた凱旋門は、コンクリートで多く埋め尽くした空間を取っており、きれいに芝生が敷き詰められていた。樹木が一本もない。写真の左の道角に斜めに立てられた看板があり、それを読むと、英語、中国語とラオス語で、「この公園は中国政府の援助で建設された」と書かれていた。どこかの隅に建てられていれば有難いと思うが、公園の中央にあり不快感を覚えた。仏教徒の中国人は、このようなことはしないであろう。

右の写真の中央の大きな建物は政府施設である。凱旋門の最上段からみる光景で、両側の高層ビルは中国経営のホテルである。正面の森が消えて、ビル街になっていた。強引な中国の事業の進め方に、ラオスは翻弄されていると強く印象に残った。



凱旋門公園



最上段からみた市街地

## 高校生の海外研修

今回のラオス研修に参加して、高知商業高校のラオス研修の素晴らしいことは、30年間継続したことと、たえず新しい研修の進め方を考えていることである。この活動が、生徒会主導で1年間の準備をして、ラオスに出かけることは、短いラオス滞在でも、多くの収穫があったと思う。特に高校時代にこのような経験をしたことは、国際的な目を開く大きな一歩ではなかつたかと思う。

最近は、高校生の海外研修が多く、英語圏に行くそうだが、英語は日本で充分に上達できる。日本人がアジア人の一員であることを知るには、高知商業高校のようにアジア諸国の海外研修で有効である。多くの高校でも実施されることを期待したい。